

3. 国内記事

通報型式：

RMK N_sCCh_sh_sh_s AP'_HP'_HP'_HP'_H V_DV_DV_DV_DV_D その他の事項

注：指示符 **RMK** は国内記事の始まりを示す。

規則：

1

N_sCCh_sh_sh_s 群一雲

1.1

次の条件のとき雲の群を報ずる。

- i METAR/SPECI の本文の N_sN_sN_sh_sh_sh_s で報じた中層雲，下層雲について雲量，雲底の高さ及び雲形を報ずる。
- ii NSC を報じた場合。
NSC の気象状態で中層雲，下層雲が存在する場合は，その雲量，雲底の高さ及び雲形を報ずる。
- iii CAVOK を報じた場合。
CAVOK の気象状態で 3000m (10000ft) 未満に雲量5オクタス以上の雲が存在する場合は，そのうち雲量5オクタス以上の最低の雲についてのみ雲量，雲底の高さ及び雲形を報ずる。

1.2

雲量 N_s

規則 1.1 の条件にあった雲の雲量を，第2表により8分雲量に応じた符号で報ずる。

第2表

N _s	8分雲量	略語
1	1/8 以下，しかし 0 ではない	FEW
2	2/8	
3	3/8	SCT
4	4/8	
5	5/8	BKN
6	6/8	
7	7/8 以上，しかし 8/8 ではない	
8	8/8	OVC
/	不明	///

1.3

雲形 CC

規則 1.1 の条件にあった雲の雲形を第3表により報ずる。第3表にない雲形は報じない。また，雲形 (CC) が不明の時は，“//”として報ずる。

第3表

CC	雲 形	CC	雲 形
AC	高 積 雲	CB	積 乱 雲
AS	高 層 雲	TCU	塔 状 積 雲
NS	乱 層 雲	／／	不 明
SC	層 積 雲		
ST	層 雲		
CU	積 雲		

1.4

雲底の高さ $h_s h_s h_s$

規則 1.1 の条件にあった雲の雲底の高さを、METAR/SPECI の第 1 表により報ずる。

2

$AP'_{HP} P'_{HP} P'_{HP}$ 群—アルティメーター・セッティング [QNH (inHg)]

2.1

QNH の値に水銀柱のインチを使用する。この群は指示文字 A を前置し、続けて 10 位、1 位、10 分位及び 100 分位の値を小数点を付けずに報ずる。例えば、QNH29.91 インチは A2991、QNH30.27 インチは A3027 である。QNH が水銀柱のインチで報じられるときは、指示文字 A のすぐ後の数字は 2 か 3 である。

2.2

QNH が欠測の場合には、A////を報ずる。

3

$V_D V_D V_D V_D V_D$ 群—方向視程

3.1

METAR/SPECI 本文の規則 6.1 によって報じた卓越視程が 5000m 以下で他の方向の視程が卓越視程の 2 倍以上又は 1/2 以下のとき、または卓越視程が 5000m を超え他の方向の視程が卓越視程の 1/2 以下かつ 5000m 以下であるとき、この視程の値を $V_D V_D V_D V_D$ に報じ、スペースを置かずに続けて D_v を報ずる。その方向は 8 方位 (N, NE 等 1～2 文字) で表す。

3.2

卓越視程が 5000m 以下で、卓越視程の 2 倍以上及び 1/2 以下の視程がともに観測された場合には、方向視程として卓越視程の 1/2 以下の値のみを報ずる。

3.3

方向視程が 2 方向にわたる場合には、その方向を時計回りの順に並べ、“—” でつないで示す (例：N—NE)。同じ値の方向視程が 2 つ以上の別々の方向で観測された場合には、航空機の運航上もっとも重要と考えられる方向を D_v に報ずる。

4

その他の事項

4.1

航空機から報告された現象

- i METAR/SPECI 本文の低層のウィンドシア—情報で報じない現象を報ずる。
- ii 観測点で観測されない現象で、当該飛行場の航空交通管制機関などから報告されたもののうち下記 iv の現象の存在位置を報ずる。

- iii これらの現象は、通報する気象報（航空気象定時観測気象報、航空気象特別観測気象報）の観測時刻前 30 分以内に観測され、かつ当該気象報より前の気象報で報じられていない現象のみを報ずる。航空気象定時観測気象報、航空気象特別観測気象報ともに、一度報じたものは繰り返し返して報ずる必要はない。
- iv 報ずる現象
 - 並以上の乱気流（MOD 以上の TURB）
 - 並又は激しい着氷（MOD 又は SEV ICE）
 - ひょう（GR）
 - ろうと雲（FC）
 - 竜巻（TDO－陸上の竜巻，WTSPT－水上の竜巻）
 - 放電又は機体への落雷（DISCHARGE）
- v 通報例
 - (a) 乱気流
SEV TURB IN APCH
 - (b) 着氷
MOD ICE INC IN CLIMB OUT
 - (c) 着氷
SEV ICE 2000FT KISARAZU

4.2

風

- i 測器故障により目測した場合
本文で通報した風を目測により推定した場合は、WIND EST と報ずる。
- ii 全滑走路を代表する風の測器故障により他の測器を使用した場合
本文で通報した風の観測に使用した測器の位置を WIND BY EQPT/DRDR と報ずる。

4.3

視界内の現象

視界内（飛行場から約 20 km以内）に次の現象がある場合は、その存在位置、移動方向など判明する資料を報ずる。

この場合、存在位置、方向及び移動方向には 8 方位を、頭上を示すときは OHD を用いる。また現象が 2 つ以上の方向にわたる場合は、“－”を用いる。

- i 存在位置及び移動方向を報ずるもの

- 雷電（TS）
- 積乱雲（CB）
- 塔状積雲（TCU）
- 下層雲に伴う尾流雲（VIRGA）
- 近い電光（LIGHTNING）
- ろうと雲（FC）
- 竜巻（TDO，WTSPT）

注：定時観測又は特別観測の観測時刻に雷電が観測された場合、略語 TS に FBL（弱），MOD（並）又は HVY（強）を前置して雷電の強度を報ずる。

- ii 存在位置又は存在方向を報ずるもの
 - 霧の塊 (FG BANK)
 - 激しいスコールライン (SEV SQL)
 - 砂じん嵐 (DS, SS)
 - 浮遊する濃い煙の層 (FU LYR)
 - その他, 運航上重大な影響のあると思われる大気現象
- iii 通報例
 - (a) 雷電
HVY TS 10KM S MOV NW
 - (b) 積乱雲
CB BANK NW-NE
 - (c) 水上の竜巻
WTSPT 3KM S MOV E
 - (d) 霧の塊
FG BANK S-W

4.4

気圧の上昇又は下降

気圧が観測時前 30 分間に 1 hPa を超えて上昇又は下降した場合, それぞれ P/RR (Pressure rising rapidly) 又は P/FR (Pressure falling rapidly) と報ずる。

4.5

降雨強度の情報

定時観測又は特別観測において観測時刻の降雨の瞬間強度が 30 mm/h 以上の場合, RI++と報ずる。

4.6

あられの種別

雪あられ又は氷あられを観測し現在天気であられ (GS) を報ずる場合, SNOW PELLETS (雪あられ) 又は SMALL HAIL (氷あられ) を報ずる。